

口腔保健における需要を考える - 口腔衛生学会自由集会の討論から -

大山 篤¹⁾, 安藤 雄一²⁾, 恒石美登里³⁾, 神 光一郎⁴⁾, 深井 穂博⁵⁾
瀧口 徹⁶⁾, 古川 清香⁷⁾, 竹内 研時⁸⁾, 木下 淳博⁹⁾

Perspectives on supply and demand trends in oral health services

- A summary of an open discussion at the 60th general meeting of Japanese Society for Oral Health -

Atsushi Ohyama¹⁾, Yuichi Ando²⁾, Midori Tsuneishi³⁾, Kouichiro Jin⁴⁾
Kakuhiro Fukai⁵⁾, Toru Takiguchi⁶⁾, Sayaka Furukawa⁷⁾
Kenji Takeuchi⁸⁾, Atsuhiko Kinoshita⁹⁾

第60回日本口腔衛生学会総会・自由集会「口腔保健における需要を考える」ワーキンググループ

¹⁾ 東京医科歯科大学歯学部附属病院歯科総合診療部

²⁾ 国立保健医療科学院生涯健康研究部・地域保健システム研究分野, ³⁾ 日本歯科総合研究機構

⁴⁾ 大阪歯科大学口腔衛生学講座, ⁵⁾ 深井保健科学研究所, ⁶⁾ 新潟医療福祉大学医療経営管理学部医療情報管理学科

⁷⁾ 鶴見大学歯学部地域歯科保健学教室, ⁸⁾ 東北大学大学院歯学研究科口腔保健発育学講座国際歯科保健学分野

⁹⁾ 東京医科歯科大学図書館情報メディア機構教育メディア開発部

キーワード：口腔保健、需給、口腔衛生学会、自由集会

抄 録

口腔保健における需給に関して、研究データを臨床現場に還元することは意義のあることである。私たちは第60回日本口腔衛生学会総会（2011年10月8日、日本大学松戸歯学部）において、自由集会「口腔保健における需要を考える」を開催した。さまざまなバックグラウンドの参加者が口腔保健における需給について討論を行った。多くの参加者が新たな口腔保健サービスの需給モデル構築が必要だと考えていた。口腔保健に関するニーズへの認識を高めて、それらのニーズを表明しやすい環境をつくるために、参加者は以下の三つの対策を提案した：1) 研究データに基づいた口腔保健情報の国民への提供、2) 歯科専門職と住民の間での口腔保健に関する情報交換の促進、3) 定期歯科受診や口腔保健マネジメントのためのシステム確立。

はじめに

昨今、マスコミなどで取り上げられている歯科関連の話題は、「ワーキングプア」や「歯科診療

所数がコンビニよりも多い」など、歯科界の将来を悲観させるものが多い^{1, 2)}。このような話題ばかりが目につく理由を考えると、今までサイエンスに基づく歯科の将来像が広く共有されてこなかったことに気がつく。従来の歯科の需給に関する研究はサイエンスというよりも、むしろ政策的なメッセージとして受け止められることが多く、一般の研究者や歯科医療従事者がヘルスケア現場での活用を意図して取り組むテーマとしては不向きとされてきたようにも思える。しかし、歯

【著者連絡先】

〒113-8549 東京都文京区湯島1-5-45

東京医科歯科大学歯学部附属病院歯科総合診療部

大山 篤

TEL&FAX : 03-5803-5765

E-mail : aoymemdv@tmd.ac.jp

科の需給に関する研究はサイエンスの要素を多分に含んでおり、一義的にはそれをヘルスケアの現場に還元していくことが目的となるはずである。そのためには、さまざまな立場の人が研究データをもとに自由に意見交換し、サイエンスに基づく歯科の将来像を共有する機会を持つことは意義があると考えられる。

私たちは第60回日本口腔衛生学会（2011年10月8日（土）16～20時、日本大学松戸歯学部）において、「口腔保健における需要を考える Part 2～サイエンスに基づいて将来像を考える～」自由集會を開催した³⁾。この自由集會は、平成21～22年度厚生労働科学研究費補助金（地域医療基盤開発推進研究事業研究事業）「歯科疾患等の需要予測および患者等の需要に基づく適正な歯科医師数に関する研究」（研究代表者：安藤雄一、以下「安藤班」）の成果⁴⁾をふまえて企画したものであり、安藤班で得られた歯科の需給に関する主要な3つの研究データをもとに、約50名の参加者とともに討論を行った。本稿はその内容をまとめ、報告するものである。

自由集會のタイムスケジュール

自由集會は、表1のようなタイムスケジュールにしたがって実施した。まず、1) 研究代表者が

全体会で趣旨説明、研究班成果の概略説明を行ったのち、研究班の成果に基づいた3つの討論テーマ（①歯科疾患の需要の推移と見通し、②定期歯科受診の動向と展望、③歯科保健医療の供給体制の見通し）を提示した。2) 参加者はそれら3つのテーマの中から討論に参加したいテーマをひとつ選択し、テーマごとに分かれてグループ討論を行った。3) 討論がある程度収束した段階で再び全体会を行い、各グループが討論した内容を報告し、その内容に関して全体で意見交換を行った。最後に、参加者にアンケートを記載してもらい、終了した。

討論のテーマ

今回の自由集會のために研究班で準備した討論のテーマは、1) 歯科疾患の需要の推移と見通し、2) 定期歯科受診の動向と展望、3) 歯科保健医療の供給体制の見通し、の3つであった。これらは「歯科疾患等の需要予測および患者等の需要に基づく適正な歯科医師数に関する研究」の主要な研究テーマであり、それぞれの研究を担当した3名ずつがコーディネータとして表1に示すような話題提供を行い、参加者と討論を行った。参加者の業種および職種は、開業医、大学の教員、行政関係者、歯科衛生士、歯科関連メーカー社員、フ

表1 自由集會の進行

1. 全体会 (15～20分程度)	研究代表者より：開会挨拶、趣旨説明、研究班成果の概略説明 司会より：グループ討議のすすめ方の説明
2. グループ討論 (60分程度)	(1) 歯科疾患の需要の推移と見通し [恒石、安藤、神] ・ 歯科疾患の需給バランスは？、潜在需要は？ ・ 歯科需要の将来予測は？ etc. (2) 定期歯科受診の動向と展望 [深井、大山、瀧口] ・ 定期歯科受診の現状は？ ・ 定期歯科受診の鍵を握るのは歯科医院の姿勢？ etc. (3) 歯科保健医療の供給体制の見通し [古川、木下、竹内] ・ 1人開業医制は続くか？ ・ 歯科医院における診療の実態は？ ・ 歯科衛生士不足とは？ etc.
3. 全体会 (40～45分程度)	各グループからの報告/全体討論 「ふりかえり用アンケート」への記入

表2-1 グループ1【歯科疾患の需要の推移と見通し】の討論内容

話題提供	<ul style="list-style-type: none"> ○ 歯科疾患量の将来的な予測 ○ 歯科衛生士の需要と供給の関係 ○ 歯科医師の需要と供給の関係 <p style="text-align: right;">など</p>
主な 討論内容	<ul style="list-style-type: none"> ○ 歯科疾患量の将来的な予測 <ul style="list-style-type: none"> ・ 歯科疾患実態調査をNormative needs、社会医療診療行為別調査を Expressed needsとするとキャッシュ・フローの関係が説明できる。 ・ 成人健診の受診率が低い。 ・ 歯科疾患実態調査では10-20歳代の受診率が低くなっている。 ・ 65歳以上の医療費が高くなってきており、内容の分析が必要である。 ・ A市健康保険組合職員における歯科定期健診時の口腔内所見およびパノラマX線所見では、42%の者に根尖病巣が認められた。 ○ 歯科衛生士の需要と供給の関係 <ul style="list-style-type: none"> ・ 歯科衛生士の求人を出しても応募がない。 ・ 歯科衛生士の修業年限が2年から3年になった影響も考えられる。 ・ ライセンスがあっても、歯科衛生士として働かない人もいる。 ・ 歯科衛生士学校の募集停止が始まっているところもある。 ○ 歯科医師の需要と供給の関係 <ul style="list-style-type: none"> ・ 歯科医師過剰のイメージは、誤った社会誘導につながっているのではないか。 ・ 高校や予備校の大学進学説明会では、「歯科医師は過剰だから」と、歯学部への進学を敬遠するように指導をしているところもある。

表2-2 グループ2【定期歯科受診の動向と展望】の討論内容

話題提供	<ul style="list-style-type: none"> ○ 定期歯科受診とは？: Expressed needsなども含めた言葉の定義 ○ 今後、定期歯科受診は増えていくのか？ ○ 日本歯科医師会の定期健診システムについて <p style="text-align: right;">など</p>
主な 討論内容	<ul style="list-style-type: none"> ○ 定期歯科受診とは？ <ul style="list-style-type: none"> ・ 「検診」「健診」では意味合いが違う。行政では「検診」が多い。 ・ 歯科医院での定期歯科受診は治療を含むこともある。 ・ 8020達成者には定期歯科受診をしている人が多く、医療費の節約やQOLの向上にも役立つ。 ・ 健康度を高めることによって、医療費を抑制できないか？ ○ 今後、定期歯科受診は増えていくのか？ <ul style="list-style-type: none"> ・ 患者満足度という視点で見た場合に、どうすればスムーズに行くのか。 ・ 過度の治療や早めの抜歯は患者さんに受け入れられていない。安心感や説明を求めていることがインターネット調査でもわかっている。 ・ 歯周疾患健診の受診率が低い。かかりつけで診てもらっているなら受診率が低くてもかまわないが、受けていないのであればきっかけにしてかかりつけ医を見つけて欲しい。 ・ かかりつけ医を持ってもらうためには、歯科医院自体の底上げも必要。 ○ 日本歯科医師会の定期健診システムについて <ul style="list-style-type: none"> ・ 定期受診の「質」がわからない。地域差はあるのか？ ・ 定期歯科受診のアウトカムは何でみていくのが適切か？ ・ 検出するだけの「検診」は止めるべき。健康教育などを含めたものが必要。 ・ 本当に定期受診が必要な人と、そうでない人が存在するのではないか。 ・ 女性の受診率が高いとされてきたが、都市部での性差はなくなってきている。 ・ 定期受診は一生涯続けなければならないのか？

表2-3 グループ3【歯科保健医療の供給体制の見直し】の討論内容

話題提供	<ul style="list-style-type: none"> ○ 歯科医院の不完全就業時間(日本歯科医師会の調査から) ○ 歯科医師の供給 ○ 歯科衛生士の需要と供給 <p style="text-align: right;">など</p>
主な 討論内容	<ul style="list-style-type: none"> ○ 歯科医院の不完全就業時間 <ul style="list-style-type: none"> ・ 「不完全就業時間」のあった歯科医院は全体の70.3%、時間は57.2±62.9分。 ・ 不完全就業時間の有無によって、歯科医院のプロフィールに違いがみられる。 ・ 不完全就業時間のない歯科医院のようにバリアフリーなどしたいが、そこに投資する勇気が出ない。 ・ 不完全就業時間には、不況も大きく影響していると思う。 ○ 歯科医師の供給 <ul style="list-style-type: none"> ・ 医師・歯科医師・薬剤師調査から作成した歯科医師数のピラミッドをみると、団塊の世代の人数が多く、若手がどんどん減少している。 ・ 将来的には、歯科医師の絶対数の不足が懸念される。 ・ 女性歯科医師は増加している。 ・ 歯科医師以外の人たちは、歯科医師数についてどう思っているのか。 ○ 歯科衛生士の需要と供給 <ul style="list-style-type: none"> ・ 歯科衛生士の人数に関する地域差は、西高東低になっている。 ・ 歯科医師が歯周病の管理を考えているかどうかによって、歯科衛生士の働き方(役割)が変わる。 ・ 歯科衛生士が長く勤められるような環境整備ができれば、歯科衛生士が長く担当できる患者が増やせるのではないか。 ・ 歯科衛生士にも育児後等に復職できるような仕組みが必要なのでは？ ・ 高齢社会に向けて、在宅診療など看護師の出番も増えるように思う。 ・ 最近、診療時間が長くなり、歯科衛生士が働きにくくなっている。

リーライターなど、多様であった。各グループにおける討論の要旨を表2-1~3に示す。

参加者アンケートの概要と結果

自由集会の最後に、参加者に対してアンケートの記載を依頼した。アンケートの記載項目は、1) 自由集会の感想(面白かった~面白くなかったを5段階評価)とその感想に関する自由回答、2) 歯

科の需給問題に関する意見、3) 自分で歯科の需がないし供給関連の研究テーマとして取り組んでみたいもの、等であった。参加者22名から回答が得られた(ただし、無回答1名)。自由集会の感想の5段階評価の結果を図1、自由集会の感想に関する自由回答を表3、歯科の需給問題に関する意見を表4、歯科の需がないし供給関連の研究テーマを表5に示す。

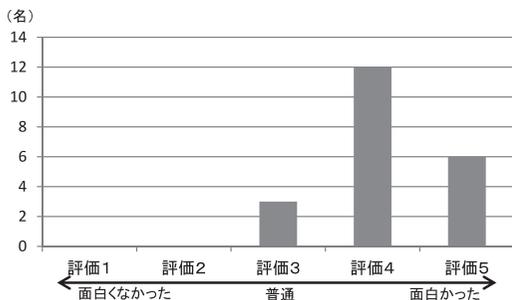


図1 自由集会の感想 (面白さ)

考 察

今回の自由集会(表1)では、安藤班での2年間の研究の成果を踏まえて参加者との意見交換を行ったが(表2-1~3)、図1や表3のように多くの参加者に興味を持ってもらうことができた。特に各グループでの話題提供において、従来の研究では明らかになっていなかった若手歯科医師数の急激な減少傾向であったり、歯科衛生士数の西高東低の分布であったり、最新のさまざまな研究

成果を示したことが大きく影響したものと考えられた。また、自由集会参加者の業種・職種は多種多様であり、さまざまな立場から活発な意見交換を行えたことを有意義だったと感じた参加者もみられ、概ね好評であった。

歯科の需給問題に関して、参加者からあげられた意見を表4にまとめた。社会情勢や地域とのつながりを考えながら、それに合わせた新たな歯科医療モデルを構築していく必要性を感じていた参加者が多かった。そのためには、今回の自由集会のようにデータに基づいた情報を歯科関係者から積極的に発信し、歯科関係者以外とも広くコミュニケーションできる機会を持つべきだという意見も寄せられた。また、定期歯科受診や口腔内のマネジメントへの積極的な関わりは、歯科のニーズをむしろ増やすのではないかと考えられた。

自分で歯科の需要ないし供給関連の研究テーマとして取り組んでみたいものについては、定期歯科受診・検診関係や住民や患者の口腔に関連した

QOLなどがあげられていたが、参加者それぞれの立場の違いにより、興味のある研究テーマには違いがあるようであった(表5)。

まとめ

第60回日本口腔衛生学会の自由集会において、「口腔保健における需要を考える Part 2 ～サイエンスに基づいて将来像を考える～」自由集会を開催した。多様な業種・職種の参加者で討論を行った結果、社会情勢や地域の実情にあわせた新たな歯科医療モデルの構築が必要であると感じていた参加者が多かった。歯科関係者からの情報発信、歯科関係者以外とも広くコミュニケーションできる環境づくり、定期歯科受診や口腔内のマネジメントへの積極的な関わり、等も今後の歯科医療を考える上で不可欠であり、将来的な歯科のニーズはむしろ増加するのではないかと考えられた。

表3 自由集会の感想に関する自由回答

<ul style="list-style-type: none"> ・ 開業医、行政など、様々な立場からの意見を聞くことができた(8) ・ 話題提供で出されたデータがわかりやすく、興味深かった(5) ・ 時間がたりなかった(3) ・ 歯科医師・歯科衛生士の需要・供給を検討する必要性がわかった(3) ・ ディスカッションの進め方がよかった(2) ・ 口腔保健向上のための需要なのか、歯科医業向上のための需要なのか不明(1)
--

表4 歯科の需給問題に関する意見

<ul style="list-style-type: none"> ・ 新たな歯科医療(需給含む)モデルの構築が必要である(6) ・ 定期歯科受診、口腔のマネジメントなどのニーズはある(4) ・ 歯科関係者以外ともコミュニケーションをとり、歯科からも情報発信するべき(3) ・ 歯科医師が過剰になり、歯科医療の質と量が増えると医療費も増加するのではないかと(1) ・ 行政では歯科健診の受診率が非常に低く、改善策がないという話があった(1) ・ 長期的な視野を持った政策が必要である(1) ・ 今こそ若手の歯科医師、歯科衛生士を育てるべき(1)
--

表5 歯科の需要ないし供給関連の研究テーマ

<ul style="list-style-type: none"> ・ 定期歯科受診・検診関係(インセンティブ、有効性、歯周病検診など)(2) ・ 住民や患者の口腔に関連したQOLなど(2) ・ 女性歯科医のライフサイクルについて(1) ・ 医科と歯科との連携(1) ・ 歯科医療の供給の質(1) ・ 予防処置の普及に必要な歯科衛生士数(1)
--

文 献

- 1) 「コンビニより歯科診療所が多い現実をどう考えるべきか！」研究員の眼
ニッセイ基礎研究所 2011年12月26日
http://www.nli-research.co.jp/report/researchers_eye/2011/eye111226.html
(最終アクセス：2011年12月30日)
- 2) 歯医者もワーキングブア？「月給25万」から「夜逃げ」まで
J-cast ニュース 2007年7月22日
<http://www.j-cast.com/2007/07/22009512.html?p=all>
(最終アクセス：2011年12月1日)
- 3) 安藤雄一：自由集会報告「口腔保健における需要を考える Part 2 ～サイエンスに基づいて将来像を考える～」。*日本口腔衛生学会誌* 2012、62：76.
- 4) 歯科保健医療の需要と供給に関するページ
<http://www.niph.go.jp/soshiki/koku/oralhealth/juq/index.html>
(最終アクセス：2011年12月1日)

Perspectives on supply and demand trends in oral health services

– A summary of an open discussion at the 60th general meeting of Japanese Society for Oral Health –

Atsushi Ohyama, Yuichi Ando, Midori Tsuneishi, Kouichiro Jin, Kakuhiko Fukai
Toru Takiguchi, Sayaka Furukawa, Kenji Takeuchi, and Atsuhiko Kinoshita

(The working group for open discussion “Perspectives on supply and demand trends in oral health services” at the 60th general meeting of Japanese Society for Oral Health)

Key Words : Oral health, supply and demand, Japanese society for oral health, open discussion

It is meaningful to apply the result of study data to the clinical practice with relation to the supply and demand trends in oral health services. The authors organized an open discussion on the topic of, “Perspectives on supply and demand trends in oral health services” at the 60th general meeting of the Japanese Society for Oral Health (October 8, 2011, Nihon University School of Dentistry at Matsudo). Participants of various backgrounds discussed supply and demand trends in oral health services. Many of the participants thought that the construction of a new supply and demand model for oral health services is necessary. In order to increase awareness of oral health care needs and create an environment in which people feel comfortable expressing those needs, the participants propose the following three strategies: 1) Providing oral health care information based on the survey data for people, 2) Promotion of information exchange about oral health care between dental professionals and residents, and 3) To establish the system for periodical dental visit and oral health management.

Health Science and Health Care 11 (2) : 58 – 63, 2011